

血潮の適用

導入

このセクションは、メッセージを聞く前に読んでください。

私たちがイエス・キリストの福音を理解し、信じる時 - その福音とは、キリストが私たちの罪のために死なれ、葬られ、三日目によみがえられたことです - イエスの血は私たちの罪を洗いよめるということはわかって、その重要性をまだ少ししか理解していないかもしれません。しかし、聖書はイエスの血について大きく取り上げており、信仰によってそれが私たちに与えられると知る時の私たちの人生に働く力について語っています。

レビ記 17:11 にこうあります。「肉のいのちは血の中にあるからである。」このみことばは、イエスが私たちのいのちを贖うために、ご自身の血という代価を支払ってくださった、という理解を与えてくれます。しかし、主から素晴らしい備えをいただいていると感じていても、それが自分の人生に完全に働くためにはどうすればいいのかがわからないことがあります。

血というものに対して抵抗を感じ、それについて話したくない人が多いですが、イエスの血はすべての信者の人生に不可欠です。私たちはイエスの血について明確な理解がないまま、聖餐式でイエスの血を受け取るべきではありません。デレクは出エジプト 12 章に記録されている過越しの話を通して、どのように私たちの人生でその血を適用するかを示してくれます。そして、聖書に啓示されている贖い、きよめ、義認、聖化、いのち、とりなし、アクセスという 7 つの適用を教えています。

神のことばに見出せるイエスの血についての真理を理解し始めるとき、私たちは今までと同じままでいることはできません。非常にシンプルな真理ですが、それらの真理は人生を変革するものです。

まとめと質問

このセクションはメッセージを聞いた後に読み、質問に答えてください。

デレクのメッセージを聞いた通り、イエスの血は信者の人生に極めて重要なものです。それは私たちの贖い、きよめ、義認、聖化、いのち、とりなし、神へのアクセスに影響を与えます。

そのリストを見ると、イエスの血なしに、神の素晴らしさと私たちに対する神のあわれみにあずかることはできないとすぐに気づくでしょう。ヘブル 12:14 はこう言っています。「すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。」ほとんどの人が、平和を追い求めることについては何らかの理解がありますが、聖さについてはどうでしょうか。私たちはどのようにして聖くなるのでしょうか。聖くされるプロセスを聖化と呼んでおり、ヘブル 13:12 こう言っています。「ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。」

神を見るために、私たちは聖くなければなりません。そしてイエスの血を通して私たちは聖くされ、聖なる者となり、神のために聖別されます。これは、イエスの血が私たちの人生に与える 7 つの影響の一つにすぎません。重要なことは、イエスの血についての真理を私たちがつかんで離さないことです。神との人生において中心となるものだからです。

以下の空欄を埋めてください。（答えは最後のページにあります。）

サタンに打ち勝つ

黙示録 12:11 「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」

1. 「彼に打ち勝った。」 - 兄弟たちとは、私たちのような人々、イエス・キリストにある.....です。
2. 信者たちが打ち勝った「彼」とは、.....のことです。聖書は他の何ものでもなく、信者とサタンの間に直接対決があるということを明確に示しています。
3. そして、信者がサタンに打ち勝つ 3 つの手段があることがわかります。:
 - (ア).....の血によって - これはイエスの血です。神の小羊は世の罪を取り除きます。(Iヨハネ 1:29)
 - (イ) 彼らの.....のことばによって - 私たちはイエスの血が私たちに成してくださったことを神のことばが何と言っているかをあかしする必要があります。もし、あかししないなら、イエスの血は完全に働くことができません。
 - (ウ) 全き.....によって - 彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しみませんでした。
4. 軍の兵士と同様、主の兵士も戦いで自分の.....を失わないという保証はありません。サタンが恐れる人々というのは、イエス・キリストの御国のために自分のいのちを捧げることを恐れない人です。
5. Iヨハネ 2:17 に素晴らしいことばがあります。「世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。」あなたの.....と神のみこころが完全に一致するとき、あなたは決して沈まない者、揺るがない者、挫折しない者となります。神のみこころに全き確信を持つ人となります。生きるか死ぬかはもはや重要ではなくなり、あなたは打ち負かされることがありません。

黙示録 12:11 を自分のものとするために、以下の宣言をしましょう。

私は神のことばが言っている、イエスの血が私にしてくださったことをあかしするとき、私はサタンに打ち勝つ。

神のみこころを行なうことは、生き残る以上に重要であることを忘れないでいましょう。

過越しの儀式

過越しの導入として、Iコリント 5:7 の「私たちの過越しの小羊キリストが、すでにほふられたからです。」について考えてみましょう。つまり、パウロは旧約聖書のエジプトでの過越しは、十字架のイエスの犠牲的な死によって完成されるものの単なる預言的な型、予告であると言っているのです。キリストが真の過越しです。過ぎ越しの子羊の血ではなく、イエスの血こそが永遠の贖いへの私たちの決定的な確信です。

では、出エジプト 12:21-23 から過越しを振り返ってみましょう。

そこで、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び寄せて言った。『あなたがたの家族のために羊を、ためらうことなく、取り、過越しのいけにえとしてほふりなさい。ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。主がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家に入って、打つことがないようにされる。』

6. この過越しの儀式は、聖書が多く示している.....としての大きな責任の一つです。イスラエルにおいて民の安全と救いを得させることができたのは、イスラエルの父親たちだけでした。もし、イスラエルの父たちが義務を怠っていたら、イスラエルは過越しによって守られることはなかったのです。
7. それが.....と呼ばれるのは、子羊の血によって守られた戸口を主が過ぎ越してくださるからです。

8. 定められた日にそれぞれの父親は自分の家のために適した子羊を選び、その後、それをほふり、その血を.....に取らなければなりません。その血は非常に貴重で、一滴も地面にこぼしてはなりません。
9. 子羊がほふられたとき、鉢の中にあるその.....は守りを意味しますが、鉢の中にあるままでは、それは一人も守ることができません。鉢の中からそれぞれの家の二本の門柱とかもいに塗り付けるか、振りかけなければなりません。誰ひとりその血の上を歩いてはなりません。
10.の運命のすべては鉢から戸口に移されたその血にかかっています。これを行なうためにヒソブの一束を引き抜き、それを鉢の中の血に浸し、戸口に血をふりかけるようにと神は言いました。
11. 神はイスラエル人にもう一つの条件を与えました -の中にとどまることです。血の外側には守りがないので、彼らは外に出ることはできません。これは、私たちにとっても当てはまります。イエスの血の外側では、私たちに守りはありません。
12. I ペテロ 1:1-2 で、ペテロはエルサレムへの巡礼者たちへのあいさつで、このように表現しています。「...選ばれた人々、すなわち、父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。」その.....は、注ぎかけよりも先に来ています。血は不従順な人々には注ぎかけられません。従わない者、神の家の外に出る者には何の益ももたらしません。その血には完全な守りがあるけれど、それは従順な人に対してだけであることを忘れていまいしょう。

過越しの儀式に戻りましょう。鉢の中にある血は家に移されます。一束のヒソブを取り、それを血に浸し、かもいと門柱にふりかけ、イスラエル人は守られました。

これは私たち自身にどのように適用できるでしょうか。パウロは、私たちのために犠牲となられたイエスが私たちの過越しであると言っています。キリストは 19 世紀以上前にほふられ、過ぎ越しの教えに関連した用語を用いるなら、血は鉢の中にあります。しかし、鉢の中の血は誰をも守りません。私たちがイスラエルと同じ状況にあるのです。私たちは人生の中で鉢から血を振りかけられた者です。そして私たちが従順であるなら、守りが与えられています。では、鉢から受けたイエスの血を、私たちはどのようにして自分の人生へと移していくのでしょうか。

13. 黙示録 12:11 で学んだことを思い出しましょう。イエスの血が私たちにしてくださることを、神のことばがどう言っているかを個人的にあかします。鉢の中から私たちの人生の中にその血を移すもの(ヒソブ)は、私たちの.....であることが明らかになります。
14. あかしとは非常にシンプルなものです。それはみことばによるわずかなことばです。小さな.....の束のようにわずかなものですが、それが私たちを救うのです。それは私たちの守りであり、極めて重要なものです。
15. ヘブル 3:1 はこう言っています。「そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。」ヘブルの著者は、イエスは私たちの告白する大祭司であると言っています。告白とは、文字通りの意味は「同じことを言う」です。ですから、聖書とイエス・キリストを信じる私たちにとって、.....とは、神がみことばで言っておられる通りに、私たちの口で言うことです。

鉢からあなたの人生に血を移す方法 - イエスの血の 7 つの適用

1. あがない: 買い戻す

16. エペソ 1:7 はこう教えています。「この方であって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。」贖いとは、買い戻すという意味です。悪魔の手に渡されていた私たちを、イエスのご自身の.....で買い戻してくださいました。

17. ペテロ 1:18-19 にはこうあります。「ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」小羊という語は、私たちに過越しを思い起こさせます。「傷もない過越しの小羊キリスト」とは、イエスには原罪がないという意味で、「汚れもない」とは、ご自身の個人的な罪がないという意味です。そして、私たちはイエスの血によって.....しています。
18. 詩篇 107:2 です。「主に贖われた者はこのように言え。主は彼らを敵の手から贖い……」私たちは贖われているなら、私たちはそのことを.....なければならぬと言っています。自分が贖われている事実をあかししなければなりません。あかししないことは、自分の贖いを認めていないことになるのです。贖いを私たちの内に働かせるものはあかしです。あかししなければ、血は鉢の中に残ったままです。私たちがあかしするなら、敵であるサタンの手から贖われています。

具体的に、あかしして言いましょ。

イエスの血を通して、私は悪魔の手から贖われている。

2. きよめ

19. Iヨハネ 1:7 のことばです。「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」原語では、この聖句の動詞はすべて現在進行形です。「私たちが光の中を歩み続けているなら」、「私たちは、互いに交わりを保ち続け、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめ続けます。」となります。私たちが光の中を歩み続けるしるしは、私たちが.....を持っていることです。もし、私たちが交わりから出てしまうなら、光の外の暗闇の中に出てしまいます。そして、イエスの血はもはや私たちをきよめません。
20. 詩篇 51 篇は、殺人と姦淫という 2 つの恐ろしい罪を示され、悔い改めの大きな叫びとあわれみを求めて神に立ち返ったダビデの悔い改めの詩です。7 節で彼はこう言っています。「ヒソブをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。」ヒソブは過越しを思い起こさせます。血は私たちを完全に.....めま。

具体的に宣言しましょ。

私たちが光の中を歩むとき、イエスの血はすべての罪から現在も、そして継続して私をきよめ続けます。

3. 義認

ギリシャ語の「義認」という語には様々な意味がありますが、根本的な意味は、「義を作る」です

21. ローマ 5:9 にこうあります。「ですから、今すでにキリストの血によって.....私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。」これは、私たち自身の義ではなく、イエス・キリストの義で、義とされたという意味です。それはまた、私たちが無罪とされ、義とされているという意味です。
22. 「私は義とされている」とは、「私は決して罪を犯したことがないかのように義とされている。」と言っていることなのです。私がイエス・キリストの義で.....とされているのは、イエスは罪を犯したことがないからです。イエスには罪はなく、覆い隠さなければならぬ過去もありません。
23. イザヤ 61:10 はこう言っています。「わたしは主によって大いに楽しみ、わたしのたましいも、わたしの神によって喜ぶ。主がわたしに、救いの衣を着せ、正義の外套をまとわせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、

花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。」私たちは、.....と義を受け取ります。イエスを信じ、イエスが私たちのためのいけにえとなってくださったことを信じる時、私たちは救いの衣を着せていただきますが、それだけでなく、義の外套でも覆われるのです。

私たちの状況の中にイエスの血を適用できる宣言をしましょう。

イエスの血によって、私は義とされ無罪とされました。罪を犯したことがないかのように義と認められています。

4. 聖化

イエスの血と聖化のつながりを理解するために、ヘブル 13:12 を開いてみましょう。「ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。」

24. 原語のギリシャ語では、「聖化」は.....に関連する語です。
25. 聖化には 2 つの側面があります。
 - (ア) 一つ目の側面：私たちは.....と、汚れたすべてのものから分離されます。
 - (イ) もう一つの側面は、私たちは神の聖さで.....くされます。

ヘブル 12:7-11 に、人間の父の懲らしめと、神の懲らしめについての類似点と相違点が書かれています。

訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。

26. 私たちの肉の父は、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめますが、神の.....はまったく別のレベルです。「霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。」それは、何よりも私たちが受ける義のためで、神の聖さにあずかるためです。
27. 私たちは、イエスの.....によって神の聖さにあずかります。

このように宣言しましょう。

イエスの血によって私たちが聖くされ、聖とされ、神のために選ばれ、罪から離れ、神の聖さで聖くされます。

イエスの血が私たちにしてくださいる神のことばについて、この宣言をするたびに、私たちはあかしのヒソブを鉢の中に浸し、私たちの上に振りかけているのです。

5. いのち

28. たましいを.....のは血です。レビ記 17:11。「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」これは、神のいのち、創造者のいのちが、イエスの中にあることを言っています。

29. イエスの血の一滴は、サタンの王国全体にある力よりも強力です。なぜなら、その血の中で私たちは永遠の非被造物、計り知れない神ご自身のいのちを得ているからで、すべてが創造される前に存在していた.....だからです。

ヨハネ 6:53-57 で、イエスのからだと血に関して言っています。

..『まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことのごち、わたしの血はまことのごち物だからです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。』

30. 聖餐式についての多くの教えが、単にイエスの.....を記念するというものですが、聖書はそれ以上のことを私たちに教えています。私たちはイエスの肉を食べ、イエスの血を飲みます。この理由は単純です。そうすることで、私たちは私たちの死ぬべきからだの中に、永遠のいのちを受け取ることができるのです。

I コリント 10:16 ではこう言っています。「私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。」

31. 聖餐式にあずかる時、私たちは主イエス・キリストの血と.....にあずかっています。

その次の章、I コリント 11 章でパウロはこう書いています。

私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。『これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。』夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。』ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。(I コリント 11:23-26)

32. この聖句で、聖餐式にあずかる 2 つの特定の理由がわかります。

(ア) からだ(パン)も血(ぶどう酒)も、それをイエスの.....として行ないます。しかし、それ以上に何をやるのでしょうか。からだと血にあずかります。

(イ) 私たちは再び主が来られるまで、主の死を.....ます。たまにはではなく、頻繁に行なうことに注目してください。

33. 聖餐式にあずかる時、時間の概念の外にいます。私たちには、.....以外の過去はなく、主の再臨以外の未来はありません。私たちは主が来られるまで、主の死を告げ知らせ、それを行なうたびに、自分自身に主が再び来られることを思い起こさせるのです。

信仰によって、これを告白しましょう。

主イエスさま、私たちがあなたの血にあずかる時、その中にあるあなたのいのち、永遠で終わることのない神の聖なるいのちを受け取ります、主よ、感謝します。

今、主を受け取りましょう。あなたの心と思い、肉体にも神のいのちが満ちますように。使徒パウロは、いずれ死はいのちに飲み込まれると言っています。私たちのからだには病、衰えなど、死に向かう進行中のプロセスがあります。それらは神のいのちによって日々飲み込まれるものです。しかし、パウロは私たちの外側は衰えても、内なる人は日々新しくされると言いました。それにより、私たちの働きが終わるまで外側の人を守るために、内なる人には十分ないのちが与えられているのです。

6. とりなし

イエスの血の適用の最後の2つは、時間の領域の中から、私たちの願う最終地点である天の永遠の領域の中へと導くものです。私たちの新約聖書の体験と、旧約聖書のシナイ山でモーセが神に近づいた体験を比較して、ヘブル12章にこう書かれています。

しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。
(ヘブル12:22-24)。

まず、最初の文の「あなたは…近づいているのです。」は、実は過去形です。私たちは近づこうとしているのではなく、すでに近くに来ているのです。

34. 私たちの近くにある8つのものは、

(ア)山

(イ) 生ける神の都、天にある.....。これは今地上にあるエルサレムではなく、天にあるものです。

(ウ) 無数の.....の大祝会。

(エ) 天に登録されている長子たちの..... - 新生し、天に名前が記されている者たち。

(オ) 万民の.....である神。

(カ)された義人たちの霊。

(キ) 新しい.....の仲介者イエス - 私たちだけで神のさばきに向き合うことはできないという、もう一つの側面です。私たちはすべての罪からきよめてくださるイエスの贖いの死を必要とします。

(ク) アベルの血よりも優れたことを語る.....の血。

ここで、イエスの血とアベルの血を比較しましょう。おもに3つの対比があります。

- アベルの血は自分の思いに逆らって流された。イエスはご自身の血を喜んで与えてくださった。
- アベルの血は地に注がれた。イエスの血は至聖所で注がれた。
- アベルの血は復讐を叫んだ(創世記4:10)。イエスの血はあわれみを懇願した。

この素晴らしい真理を告白しましょう。

主よ、私が祈ることができない時でさえ、イエスの血が天で私のためにとりなしてくださっていることを感謝します。

7. アクセス

ヘブル10:19-23です。

こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。

35. ヘブル書の3つの聖句を比較すると、新しい真理を発見できます。ヘブル3:1は、イエスは「私たちの告白する大祭司」と言っており、4:14では、「私たちの信仰の告白を堅く保つ」と言っていますが、

10:23 では、「私たちは動揺しないでしっかりと…」とあります。私たちが動揺せず、告白する必要があるということは、何らかの.....があるということが確かだとわかります。私たちは周りのすべてが敵対しているように思えても、正しい告白をし続ける必要があります。

36. 20 節の「新しい生ける道」ということばを読むとき、アロンが一年に一度至聖所に入る時、垂れ幕と贖いのふたの間に血を.....たび振りかけなければならなかったことを思い起こさせます。

デレクは自身の「Extravagant Love(なんという愛)」という著書の中で、アロンと同様イエスもまた七たび血をふりかけたということを聖書から示しています。①ゲッセマネの園で、汗が血のようにしたり落ちた(ルカ 22:42)。②大祭司の家で打たれた(マタイ 26:67)。③イエスはむち打たれた(マタイ 27:26)。④イエスのひげが抜かれた(イザヤ 50:6)。⑤いばらの冠が頭にかぶせられた(マタイ 27:28,29)。⑥イエスの手足がくぎで十字架につけられた(マタイ 27:35)。⑦槍がイエスの脇腹を突き刺した(ヨハネ 19:34)。

この素晴らしい真理を宣言しましょう。

主よ、イエスの血の注ぎかけによって、私が宇宙で最も聖なる場所であるあなたの臨在の中に入ることができることを感謝します。

最後に、このメッセージの最初に学んだ黙示録 12:11 を思い出しましょう。

私たちは小羊の血と私たちのあかしのことばによって、サタンに勝利し、死に至るまでのちを惜しみません。

答え - 血潮の適用

1. 信者
2. サタン
3. (ア) 小羊 (イ) あかし (ウ) 献身
4. いのち
5. 思い
6. 父親
7. 過越し
8. 鉢
9. 血
10. イスラエル
11. 家
12. 従順
13. あかし
14. ヒソブ
15. 告白
16. 血
17. あがなわれ
18. 言わ
19. 交わり
20. きよめ
21. 義とされている
22. 義
23. 救い
24. 聖さ
25. (ア) 罪 (イ) 聖
26. 懲らしめ
27. 血
28. あがなう
29. いのち
30. 死
31. からだ
32. (ア) 記念 (イ) 宣言
33. 十字架
34. (ア) シオン (イ) エルサレム (ウ) 御使いたち (エ) 教会 (オ) 審判者
(カ) 全う (キ) 契約 (ク) 注ぎかけ
35. 患難
36. 七

問題数 - 47 問